

記録作業を、音声入力で迅速化、センサーで自動化！

可視化

データ連携

申請事業者：社会福祉法人愛育福祉会（延岡市）
業種：社会福祉業

従業員数：78名
設立：2001年



データの入力作業に、音声入力とセンサー連携を活用し、負担を軽減！

取組の概要

導入部門：支援課、医務
 導入業務：支援記録作業、バイタルデータの記録、夜間見守り業務
 導入目的：記録作業の効率化、業務負担の軽減、ケアの質向上
 導入技術：タブレット記録アプリ「more Care Palette」
 センサー情報接続ツール「ほのほのIoT接続ツール」
 体動検出センサー「眠りSCAN」
 導入手法：支援記録を音声でアプリに入力。さらに、測定機器やセンサーから得た体温や心拍数などの情報を自動でアプリに入力する。
 導入費用：¥2, 225千円（税抜）



取組の背景

- 抱えていた問題点
 - ①支援記録を手書きやExcelで行っており、データの即時共有や緊急時の対応が難しかった。
 - ②体温や血圧、血中酸素濃度などの記録は、手書きした後にシステムに入力しており、二重の手間が発生していた。
 - ③夜間の巡回業務の負荷が大きく、ケアの質が低下するリスクがあった。
- 解決に向けた課題設定等
 - ①タブレットに音声入力を行うことで、正確なデータを即時入力。
 - ②測定機器をBluetoothで連携させ、データをシステムに自動で取り込む。
 - ③ベッドにセンサーを設置し、睡眠の状況を可視化。

取組の成果

- ・記録作業にかかる時間を、**66%削減**
支援記録を入力する時間 90時間/月 → 30時間/月
- ・バイタルデータ入力にかかる時間を、**50%削減**
測定結果を記録する時間 20時間/月 → 10時間/月
- ・夜間巡回業務にかかる時間を、**75%削減**
スタッフが全居室を見回る時間 120時間/月 → 30時間/月